



松本 紀史 議員

「女性が活躍できる 社会環境整備」への 取り組み

女性の活躍は少子高齢化が急速に進む社会にとって不可欠である

女性の社会進出の実態と意識の調査はしたのか。

答 20〜30歳代の非正規雇用の労働者のうち正社員に変わりたいとする割合は男性が50%に対し女性は30%と低い。昇進の希望状況でも管理職昇進希望者は男性が50%を超えるのに対し、女性は10%と大変低い数値である。

仕事と家庭の両立が困難になるとの回答も多く、仕事と生活の調和が必要であり、労使が問題を共有し話し合いを進めることが最も重要と考えている。対応策についてはきめ細かな

な施策を実施していく。

答 平成32年の人口約8万5千人。15歳から64歳の労働人口が5,800人減少し高齢者は4,000人の増との推計。若者の定住なくして高山市の発展は望めない。

問 若者定住促進に向けてのアンケート調査結果は。

答 大学等への学生に地元企業情報を紹介する「就職ガイドたかやま」等の送付の要否を積極的に呼びかけたところ、情報提供を希望する学生は87名であった。今後、希望者を増やす対策が必要と考えている。

問 高卒者の高山市内への就職内定状況はどうか。

答 平成25年度求人数4

13人に対し就職希望者数が325人、内定者の就職は208人で内定率64・4%と増加している。今後も「高校生地元企業説明会」など継続して実施し地元企業への就職を促進していきたい。

問 市内移住者について県内各市が人口減少抑制を目指して様々な施策を実施している。高山の移住者の現状は。

答 高山市内への移住者は130世帯182人にのぼり、内153人が40歳未満である。観光産業や木工など製造業従事者が多い。「若者定住促進事業補助金」等の制度を広く周知し若者の定住を促進していきたい。



今井 武男 議員

飛驒牛づくりに対する長期ビジョンは

畜産業について

問 第11回全国和牛能力共進会への取り組みについては。

答 平成24年の長崎共共は繁殖肥育頭数26頭のうち高山市から18頭出場した。前回の反省点として候補牛を早めに絞り込まず、生産組織関係機関一丸となって取り組んでいる。

問 飛驒牛の課題と対応については。

答 最近では、遺伝的にも県内種雄牛と近交しにくい県外の繁殖雌牛の導入が増える傾向にあり、繁殖雌牛が遺伝的にもまとまりのない状態となる課題がある。繁殖農家には県内種雄牛の血の濃い後継牛を保留してもらうようにしている。全共対策

として候補種雄牛の受精卵移植を進め繁殖雌牛の頭数不足を補う。

問 飛驒牛づくりに対する長期ビジョンは。

答 昨年からは県内の生産組織内部で話し合いを進めている。肉牛組合が互いに連携して、肉質を第一に系統牛づくりを進めていく計画である。

水道水による高齢者の見守りについて

問 専用のメーターを水道管に設置し、水道の利用で親族、地域に連絡がいく見守りシステムをどう捉えているか。

答 今後、高齢化の進展や核家族化などによりひとり暮らしの高齢者の増加が見込まれる中、市ではひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの

世帯に対し、緊急通報システムの設置を推進している。水道水による見守りについては、特徴やコスト、効果などについて研究していく。

ゆとり教育と道徳教育について

問 挨拶のできる子、できない子の捉え方は

答 市内31校すべての学校教育目標で挨拶は児童会、生徒会活動の重要な柱の一つとしている。地域では「近所同士が、顔も名前も知らない」「子どもに声をかけると不審者に疑われる」といった声が聞こえる。「挨拶」は「協働のまちづくり」の原点である。子どもたちにしつかりと伝え「生きる力」として身に着けさせる責任を周囲が有している。

